

---

# 自分の好きなキャラクターで野球

へら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自分の好きなキャラクターで野球

### 【コード】

N6792V

### 【作者名】

へら

### 【あらすじ】

いろいろなキャラが集まって、野球をやります。(ほとんど高校

生)

## 挨拶

どうもヘラです。

自分の好きなキャラクター（男子高校生）で、野球の話を書いてみたいと思います。

まだまだ初心者で、文章も見づらいかもしれませんが、楽しんでいただけると幸いです。

そして、好きなキャラが結構偏ってると思いますが、そこは勘弁して下さいw

男たちだけだとかかなり暑苦しくなりそうなので、女子も応援として登場させようと思います。

ちなみに球場は甲子園球場で書きたいと思います。

それでは、よろしく願います。

## 登場キャラとチーム分け

まずは登場キャラ

<生徒会の一存>

・杉崎 鍵

・中目黒 善樹

・宇宙 守

おなじみ2年B組の男子

<バカとテストと召喚獣>

・吉井 明久

・坂本 雄二

・土屋 康太

・木下 秀吉

・須川 亮

・福村 溝平

・久保 利光

・常村 勇作

・夏川 俊平

2-Fのメンバーと久保と常夏コンビ

<これはゾンビですか?>

・相川 歩

・織戸

アンダーソン

・下村

ゾンビと変態とイケメン

<それのおとしもの>

・桜井 智樹

・守形 英四朗  
中学生からのエントリー

<とある魔術の禁書目録>

・上条 当麻

イマジンプレーカー

それではチーム分け

Aチーム

・吉井 明久

・坂本 雄二

・土屋 康太

・木下 秀吉

・須川 亮

・福村 溝平

・久保 利光

・桜井 智樹

・守形 英四朗

Bチーム

・杉崎 鍵

・中目黒 善樹

・宇宙 守

・常村 勇作

・夏川 俊平

・相川 歩

・織戸

アンダーソン

・下村

・上条 当麻

それでは応援団発表

Aチーム応援団

- ・ 姫路 瑞希
- ・ 島田 美波
- ・ 霧島 翔子
- ・ 工藤 愛子
- ・ 木下 優子
- ・ イカロス
- ・ ニンフ
- ・ アストレア
- ・ 五月田根 美香子

Bチーム応援団

- ・ 桜野 くりむ
- ・ 紅葉 知弦
- ・ 椎名 深夏
- ・ 椎名 真冬
- ・ 宇宙 巡
- ・ ハルナ
- ・ ユークリウッド・ヘルサイズ
- ・ セラフイム
- ・ 平松 妙子
- ・ 三原 かなみ
- ・ 吉田 友紀
- ・ インデックス

はたして、どちらが勝つのか。

**登場キャラとチーム分け（後書き）**

自分でもかなり偏ってると思いますw w

はたしてどちらが勝つのでしょうか。俺もまだ決めてないのでわかりませんw w

## ルール説明

ルール其の一

- ・ゲームは7回までとする。

ルール其の二

- ・ホームランを打ったらベースを回り、ホームに帰ってきたあと駄洒落を言う。

うければプラス一点。

ルール其の三

- ・各イニング、打者が一巡したら問答無用でチェンジする。

ルール其の四

- ・原則として、交代は認めない。しかし、体調不良やけががあった場合、応援団員から一名、交代要員として連れてくること。

ルール其の五

- ・デッドボールを与えたピッチャーは、球審西村の名において罰を与える。

ルール其の六

- ・敬遠するときは徹底的にやること。生ぬるい敬遠をしたものは球審西村の（以下同文）

ルール其の七

- ・乱闘はなし。乱闘を起こしたものの、及び、起こそうとしたものは球審西村の（以下同文）

ルール其の八

- ・その他のルールは硬式野球のルールにのっとる。

## ルール説明（後書き）

次からは早速、キャラ達を動かしていきたいと思います。

## 試合開始

他の人たちより早く来た文月学園の生徒たち

明久「へえ、ここがあの子園球場か。なんだかわくわくしてきたね」

秀吉「そうじゃのう」

雄二「ああ、そうだな。野球なんて体育祭以来だからな。久しぶりに大暴れしてやるぜ」

ムッツ「……楽しみ」

須川「あれ、でも今日は俺ら以外にも誰か来るんだよな？」

福村「ああ、なんか北海道とか、福岡とかから来るらしいぜ」

明久「なんだか楽しくなりそうだね」

久保「…僕は吉井君と一緒に居られるだけで…」

明久「ん？何か言った、久保君？」

久保「い、いや。なんでもないよ」

夏川「おい、てめえら！俺らを見殺すんじゃないよ！」

明久「大丈夫ですよ、常夏先輩」



当麻「インデックス、お前は応援席に行っとけ」

インデックス「うん！分かった！当麻も頑張ってるねー！」

明久「あれは誰？」

雄二「あれは、学園都市つつ、学校がたくさん立ち並んでる所からきたみてえだぞ」

明久「じゃあ僕たちより勉強できる人だね」

ムッツ「…明久、言ってる悲しくならない？…」

最後に空美中学校一行と創遊学園一行が到着した。

智樹「先輩、確か俺ら以外高校生ですよね」

守形「ああ、そうだが」

智樹「じゃあなんで俺ら以外高校生なんですか！？不公平でしょ！」

守形「さあな。人数が足りなかったんじゃないのか」

智樹「数合わせかよー！！」

明久「あれは？」

雄二「福岡から来た中学生だ」

明久「中学生でここに呼ばれたってことは、かなりすごいんだね」

いや、ただ単に知ってる高校生がこのくらいしかいなかったからです。

織戸「美少女はどこだ！」

歩「おい織戸、俺らはここに野球をしに来たんだ」

下村「そうだな。相川の言うとおりだ」

雄二「あれは確か、創遊学園の奴らだ」

明久「あのツンツン頭の方は、ムツツリーニと気が合いそうだね」

ムツツ「…そんなことはない…」

鉄人「全員集合!!」

学生たちは鉄人の周りに集まる。

鉄人「それでは今から自己紹介をそれぞれしてもらおう」

.....  
30分後  
.....

鉄人「さて、ではチームを発表する」

Aチーム

・吉井 明久

・坂本 雄二

- ・土屋 康太
- ・木下 秀吉
- ・須川 亮
- ・福村 溝平
- ・久保 利光
- ・桜井 智樹
- ・守形 英四朗

Bチーム

- ・杉崎 鍵
- ・中目黒 善樹
- ・宇宙 守
- ・常村 勇作
- ・夏川 俊平
- ・相川 歩
- ・織戸
- ・下村
- ・上条 当麻

鉄人「ではこの試合のみに適応される特別ルールを発表する」

ルール其の一

- ・ゲームは7回までとする。

ルール其の二

・ホームランを打ったらベースを回り、ホームに帰ってきたあと  
駄洒落を言う。

うければプラス一点。

ルール其の三

- ・各イニング、打者が一巡したら問答無用でチェンジする。

ルール其の四

・原則として、交代は認めない。しかし、体調不良やけががあった場合、応援団員から一名、交代要員として連れてくること。  
ルール其の五

・デッドボールを与えたピッチャーは、球審西村の名において罰を与える。  
ルール其の六

・敬遠するときは徹底的にやること。生ぬるい敬遠をしたものは球審西村の（以下同文）  
ルール其の七

・乱闘はなし。乱闘を起こしたものと、及び、起こそうとしたものは球審西村の（以下同文）  
ルール其の八

・その他のルールは硬式野球のルールにのっとる。

鉄人「以上、それでは試合を始めます」

選手一同「よろしくおねがいますー!」

## 試合開始（後書き）

かなり読みにくい文章だと思います。

基本的にバカテスマンバーを中心に書いてます。

**打順と守備位置とその他役職（前書き）**

なかなか試合が始まりませんw

## 打順と守備位置とその他役職

Aチーム 主将 坂本雄二

一番 土屋康太 二塁手

二番 木下秀吉 一塁手

三番 守形英四朗 中堅手

四番 坂本雄二 捕手

五番 吉井明久 投手

六番 須川亮 左翼手

七番 久保利光 三塁手

八番 桜井智樹 右翼手

九番 福村幸平 遊撃手

Bチーム 主将 夏川俊平

一番 杉崎鍵 右翼手

二番 中目黒善樹 中堅手

三番 夏川俊平 三塁手

四番 相川歩 左翼手

五番 常村勇作 二塁手

六番 下村 投手

七番 上条当麻 一塁手

八番 織戸 捕手

九番 宇宙守 遊撃手

審判 文月学園教師陣

球審 西村（以下「鉄人」）

一塁 大島

二塁 寺井

三塁 福原

実況

毎度おなじみ数学の竹原

解説&放送

文月学園放送部 新野すみれ

リポーター

碧陽学園新聞部部长 藤堂リリシア

その他球場スタッフ

それでは試合をお楽しみください。

## 打順と守備位置とその他役職（後書き）

Bチームの打順と守備がめちゃくちゃですが、楽しんでいただけ  
ることを祈ります

## 一回表(前書き)

ようやく試合が始まります

竹原と新野さんが大半をしゃべります。

## 一回表

新野「一番、セカンド、土屋君」

鉄人「プレイボール！」

竹原「さあ始まりました。一番セカンドの土屋君はとても足が速い選手です。」

ピッチャーの下村君はどのようにして攻めていくのか。見所ですね、解説の新野さん」

新野「そうですね、ピッチャーの下村君は球種が豊富で、ストレイトも早いですからね」

竹原「ピッチャー、第一球、投げた」

鉄人「ストライク！」

竹原「土屋君初球は見ました。あれはスライダーですね。ピッチャー、第二球、投げた」

カツン。と乾いた音が鳴る

竹原「おーっと、セーフティバントだーっ。上手くサード方向に転がしました。サード夏川君、投げるが、土屋君の方が、ボールより先にベースに到達。ノーアウト一塁になりました」

新野「二番、ファースト、木下君」

竹原「やはりここは無難に送ってくるのでしょうか」

新野「そうですね。主将の坂本君は確率が高い方にかける性格ですので、ここは送りバントでしょう」

竹原「ピッチャー、投げた。おーっと、土屋君ここで盗塁だーっ」

秀吉はボールを見送った。

竹原「キャッチャーの織戸君、良い送球！」

寺井「アウト！」

竹原「すごいです！あの俊足ランナーの土屋君の盗塁を防ぎました。これでワンアウトランナーなしになりました」

新野「低めで早い送球でしたね」

竹原「さあランナーなしの状態で、木下君はどう出るのか」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク！」

竹原「さあ、木下君、追い込まれました」

ピッチャーが投げる

ブンッ！

竹原「木下君、三振。下村君、最後はスライダーで空振りを誘いました」

新野「三番、センター、守形君」

竹原「さあ、注目のバッターです。私は彼と桜井選手の在籍する中学校で数学教師を務めているのですが、彼は男子生徒の中で一番身体能力が高い生徒だと思っています」

ピッチャーが投げる

竹原「おーっと、守形選手、ピッチャー下村君のフォークボールをセンター前に打ったーっ。中目黒選手、落ち着いてボールを処理し… ああーっと！センター中目黒君、ボールをトンネル！その間に守形選手、塁を進める！」

新野「レフト相川君のフォローが早かったですね」

竹原「ツーアウトから得点圏にランナーを進めてきました。ここでキャプテン、坂本君の登場です」

新野「四番、キャッチャー、坂本君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク！」

竹原「坂本君、一球目は見ます」

ピッチャーが投げる

ガギン！！鈍い音が響く

福原「ファール」

竹原「坂本君、下村君のストレートについていってます」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「スライダーが外れました」

ピッチャーが投げる

カーン！！鋭い音が響く

竹原「これは、超特大、レフトスタンドに入るでしょう…ああーつと！相川君が跳んだ！！高い！！そして、掴んだ！！相川君超特大ツーランホームランをアウトにしました！！」

新野「打った坂本君はかなり驚いているようですね」

竹原「さあ、Bチームこの回無失点で乗り切りました。この勢いを攻撃に乗せしてくるでしょう。守るAチームはどのような守備を見せてくれるのでしょうか。」

一回表（後書き）

織戸の個性が完全に消えました W W

それぞれのペンチ（前書き）

試合中に竹原と新野しかしゃべらないのは寂しいので書きます

## それぞれのベンチ

（Aチームベンチ内）

雄二「クソっ！何者なんだ、あのレフトは！」

明久「あそこに飛んだ球を取られたら、ホームランはもう期待できないね」

秀吉「そうじゃのう。どうするべきか」

明久「守形君はどうするべきだと思う？」

守形「コツコツとヒットを重ねていくのが一番なんじゃないか」

智樹「その通りっすね先輩」

須川「ところで、桜井、訊きたいことがあるのだが」

智樹「なんっすか？」

須川「あの応援席で応援している、羽根の生えた美少女三人は何なんだ」

智樹「ああ、あれは俺の家族みたいなもんですね」

福村「家族って、一緒に住んでるのか！？」

智樹「はい」

須川「：裏切り者には」

智樹「へ？」

須川・福村・ムッツ・明久「死の鉄槌を！！」

智樹は十字架にくくりつけられた

須川「被告を死刑に処する。意義は」

福村・ムッツ・明久「なし！！」

智樹「いやだああああ！！俺はまだ死にたくないいいいい！！」

雄二「やめとけ！！」

智樹「はあ、はあ、死ぬかと思った」

須川「なぜ止める、坂本」

雄二「とりあえず試合に集中しろ。終わったら、煮るなり、焼くなり、好きにしる」

智樹「え？」

福村「分かった、それで手を打とう」

智樹「やめて下さいよ！！先輩も何か言ってやって下さい」

守形「そうか、智樹だけが犠牲になるならな」

智樹「先輩!？」

明久「じゃあ、この試合さっさと終わらして、桜井君を処刑しよう」

智樹「嫌だあああああああああ!?!」

秀吉「お主らはいつにもぎやかじゃのう」

.....

.....

くBチームベンチく

織戸「相川、お前すげえな!」

下村「ホントに助かった」

歩「いやいや、それほどでもないさ」

杉崎「いや、あれは人間業じゃないぞ」

守「本当だよな。どうやってやったんだ?」

歩「いや、それは...」

当麻「本人が嫌がってるんだからやめとけよ」

守「そうだな。まあでもおかげで点取られなかったからな」

中目黒「そうだね、僕もトンネルした時、相川君が助けてくれなか

「つたら点取られてたかもしれないからね」

常村「あんなトンネルもうすんじゃねえぞ」

中目黒「はい。僕、頑張ります!！」

夏川「よし!よく言った!それじゃあ点取りに行くか!」

Bチーム一同『応!!!』

## それぞれのベンチ（後書き）

常夏コンビがかなりいい人に見えてきました。

今回も読みにくいと思いますが、楽しんでいただけたら幸いです

## 一回裏

新野「一番、ライト、杉崎君」

竹原「さあ、一回裏が始まりました。ピッチャーの吉井君はコントロールにかなりの自信があるようです。さて、ピッチャー、第一球、投げた」

ブンッ

鉄人「ストライク！」

鉄人「杉崎選手、一球目から振ってきました。続いて二球目、投げた」

ブンッ

鉄人「ストライク！」

竹原「これも振ってきました。吉井選手はコーナーを的確についてきます」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク！バッターアウト！」

竹原「おーっと杉崎選手、手が出ません。アウトローいっぱいをつけてきました」

新野「二番、センター、中目黒君」

ピッチャーが投げる

カーン

竹原「ピッチャーフライだ、吉井選手きっちり取った」

鉄人「アウト！」

竹原「ツーアウトランナーなしになりました」

新野「三番、サード、夏川君」

竹原「さて、因縁の対決です。どちらがこの勝負を制するのでしょうか」

新野「全く予想がつきませんね」

ピッチャー投げた

カンッ、鋭い音が鳴り響く

竹原「おーっとピッチャーライナーだーっ！吉井選手とったーっ！これでスリーアウトチェンジです」

## 一回裏（後書き）

今回も読みにくいと思います。

あと、ここにきて打順とか守備位置が本当にあってるのか疑問に思  
いますww

## 応援団インタビュー

リリシア「突然ですが、ここで応援団へのインタビューをしたいと思います。ということで、私、今、Aチーム応援団席に来ていますわ」

美波「アキーっ！頑張ってーっ！！」

瑞希「明久君、頑張っして下さい！！」

翔子「…雄二、頑張って」

工藤「ムツツリー二君、頑張れーっ！！」

優子「みんながんばれーっ！」

リリシア「早くもAチーム応援団にぎわってますわね。それでは、さっそくインタビューを開始したいと思いますわ。その赤髪のポニーテールの人、ちょっとよろしいですか」

美波「はい、いいですよ」

リリシア「今日は、誰の応援に来たんのです」

美波「アキたちの応援に来たのよ」

リリシア「アキってというと…」

瑞希「吉井君のことですよ」

リリシア「では、吉井君とはどのような関係ですの」

美波「た、ただのクラスメイトよっ!!」

瑞希「そ、そうですっ!クラスメイトですっ!!」

リリシア「…フフ…では、吉井君と恋人の関係にあるとか、そういうことはありませんの」

美波「こ、恋人って…」

瑞希「だ、ダメですっ!そんなの、不健全ですっ!!」

リリシア「では、吉井君とは何もなかったんですの」

美波「あ、あるわけないじゃない!!」

瑞希「そうですっ!!明久君はそんな人じゃないですっ!!!!」

リリシア「分かりましたわ。それではインタビューを終わりますわ。ちなみに、この試合とか、インタビューとかは、後にインターネット配信されるので、あしからず」

美波・瑞希「!!!?!」

リリシア「それでは、吉井君に片思いしている二人へのインタビューでした。藤堂リリシアがお送りしましたわ」

美波・瑞希「いやーっ!!!!」

## 応援団インタビュー（後書き）

とても読みづらい文章読んでいただきありがとうございます

このインタビューは何回かやっていききたいと思います。

## 二回表

新野「五番、ピッチャー、吉井君」

竹原「さあ、Aチームの攻撃は、先ほどBチームを三人で抑えたピッチャーの吉井君です」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

ピッチャーが投げる

カーン

竹原「ライト前に運んだーっ！Aチーム、ノーアウトからランナーを出しました」

Aチーム「ナイバッチ！！」

新野「六番、レフト、須川君」

ピッチャーが投げる

コッソ

竹原「ここは無難に送ってきました。次のバッターは久保君ですが、

どう思いますか」

新野「ランナーに吉井君がいることを考えると、必ず打ってくると思いますね」

新野「七番、サード、久保君」

ピッチャーが投げる

カキーン

竹原「ライト前ヒットーっ！吉井君、二塁を回ります！ライト杉崎君、バックホーム！良い返球だーっ！吉井君スライディング！はたしてセーフか、アウトか！」

鉄人「セーフ！！」

竹原「Aチーム先制しました。なおもワンアウトランナー二塁です」

明久「久保君！ナイバッチー！！」

久保「僕は吉井君のためなら何でもできる！！」

新野「いやー、久保君、かなりイタい発言です」

新野「八番、ライト、桜井君」

竹原「桜井選手はうちの学校でも、ゴキブリ桜井と言われるので、粘るんじゃないですか」

新野「ゴキブリw」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

~~~~~しばらくお待ち下さい~~~~~  
~~~~~

鉄人「ファール」

竹原「次で15球目です、ピッチャーの下村君。カウントはツー  
スライクスリーボール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール。フォアボール」

竹原「おーっと、ここでピッチャー集中力が切れました」

新野「九番、ショート、福村君」

ピッチャーが投げる。

ガギン

竹原「セカンド正面！4-6-3ゲッツー！チェンジになります。  
しかしAチーム、今回貴重な一点が入りました。この調子で守備も  
いけるのでしょうか！」

二回表(後書き)

はたしてどちらが勝つのか。

それぞれのベンチへ其の下

くAチームベンチ内へ

雄二「よくやった、明久あ!!」

明久「須川君と久保君のおかげだよ」

久保「僕は吉井君のためなら…」

秀吉「にしても、よくあの状態でホームに突っ込む気になったのう」

明久「あのときはとりあえず何も考えずに走ってたんだ。とにかく点を入れないといけないからね」

ムッツ「……明久、ナイスラン」

明久「ありがとう、ムッツリー」

雄二「それじゃ、きっちり守って次の回、点取りに行こうぜえ!!」

Aチーム「応!!」

くBチームベンチ内へ

下村「みんな、すまない」

織戸「気にすんなよ、アンダーソン」

常村「そうだぞ、点取られた分は皆で取り返しゃいいんだ」

守「そつだな、責任をピッチャーだけに押し付けるのは男らしくない」

当麻「それに、ごちやごちや言っても点が取れる訳じゃないしな」

下村「ありがとう」

夏川「それじゃあ、点取りに行こうぜえ！！」

Bチーム『応！！』

それぞれのペンチく其の二丁（後書き）

また常夏コンビが良い人みたいですね W W

## 二回裏

新野「四番、レフト、相川君」

竹原「さあ、二回の裏、Bチームの攻撃が始まります。先ほど、自らの足でホームベースに帰ってきた吉井選手がマウンドに上がります」

ピッチャーが投げる

ガギン!!

竹原「相川選手、超特大場外ホームランです!!相川選手、ゆっくりとダイヤモンドを一周します」

Bチーム「ナイバッチ!!」

竹原「吉井選手、呆然と立ち尽くしています。ここでキャッチャーの坂本君がピッチャーの吉井君のもとに寄ります」

「マウンド」

明久「雄二、ごめん」

雄二「大丈夫だ、あいつに打たれることは想定内だった」

明久「え、なんで？」

雄二「考えてみる。さっきの回、守形の打球をあのセンターがトンネルした時のフォロースピードが尋常じゃなかった。しかも、さ

つき俺がホームラン並みの打球を打ったときのあいつのジャンプ。人間業に思えたか？」

明久「いや、絶対におかしいと思った」

雄二「だろ。あいつの力は鉄人をも軽く凌駕してるからな。誰の球だろうが絶対にホームランだ」

明久「じゃあ、これから相川君の前にはランナーを出したらいけないってことだね」

雄二「いや、敬遠する」

明久「え、何で？相川君は足も速いみたいだし、塁に出したらいけないんじゃないの？」

雄二「考えてみる、うちはホームランを封じられてるから、そんなに点数が取れないだろ」

明久「そうか、分かった、雄二」

雄二「それなら、次三人絶対に切るぞ」

明久「応！！」

（再び試合再開）

鉄人「では相川、駄洒落を言え」

歩「へ？」

鉄人「忘れたのか、ルールにあつただろ」

歩「えーっと、ふとんがふつとんだ」

鉄人「相川、早くベンチに戻れ」

歩「……はい」

竹原「相川君、追加点のチャンスを、しょうもないダジャレで逃しました」

新野「ホントに残念な子ですね」

新野「五番、セカンド、常村君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「ファースト正面」

大島「アウト」

新野「六番、ピッチャー、下村君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「セカンド正面」

大島「アウト」

新野「七番、ファースト、上条君」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク、バッターアウト、チェンジ！」

竹原「吉井君、本日二回目の三振です」

それぞれのベンチへ其の三へ

く B チームベンチ内へ

夏川「相川、ナイバッチ！」

杉崎「すごかったな！」

相川「サンキュー」

常村「でも、相川以外、ヒット打ててねえよな」

B チーム『! !』

夏川「…終わったこと気にするより、これからのことを考えようぜ  
！」

中目黒「そうですね」

常村「じゃあ、いっちょ守りに行きますか！」

B チーム『応! !』

く A チームベンチ内へ

雄二「一点はとられたが、あれは仕方がない」

秀吉「そうじゃのう。あれは人間業ではないのではないか」

須川「ああ、鉄人よりやばそうだぜ」

雄二「だから、これから全力で点を取りに行く。幸い、こっちの先頭バッターはムツツリーニだ。ムツツリーニ、いけるか」

ムツツ「…もちろん」

雄二「あのキャッチャーのことを変態だと思って見くびっていたからさっきの盗塁は失敗したんだと思う。今度は油断するなよ」

ムツツ「分かった」

雄二「秀吉も必ず送りバントでムツツリーニを進めてくれ」

秀吉「分かったぞい」

雄二「そして、守形、俺、明久で得点を取る。分かったかみんな」

明久「分かったよ」

須川「分かった」

守形「ああ」

秀吉「心得た」

雄二「それじゃあ、行くぞ!」

Aチーム「応!」

## それぞれのペンチく其の三丁（後書き）

今回も読みにくいと思いますが、楽しんでいただけたら幸いです。

夏休みが終わる前に書き終われるように、更新スピードを上げていきたいと思います。

### 三回表

新野「一番、セカンド、土屋君」

竹原「さあ、Aチームは早くも打順が一周しました。そしてバッターは土屋君。足を使って試合を進めていくでしょう」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「セカンド深い所っ！ショート宇宙君、投げるが…間に合わないっ！土屋君二打席連続の内野安打です！」

大島「セーフ！」

新野「足を使ってくるでしょうね」

新野「二番、ファースト、木下君」

竹原「一塁ランナーの土屋君、大きくリードをとってます」

ピッチャーが投げる

竹原「土屋君走ったーっ！！キャッチャーも織戸君二塁送球！良い送球だが！…」

寺井「セーフ！」

竹原「セーフ！土屋君今度はしっかり決めてきました！」

Aチーム「ナイスラン！」

ムッツ「…俺をなめるな」

竹原「ワンボールノーストライクです」

ピッチャーが投げる

コツンッ

竹原「木下君、送りバント成功！ワンアウトランナー三塁となりました」

新野「三番、センター、守形君」

竹原「このチャンスにバッターは守形選手。Aチームチャンスです」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「レフトへの大きい当たり！相川君、超巨大ジャンプで取りました！そして土屋君は走る！！」

ムッツ「…俺をなめるなッ！」

相川「俺をなめるなああああ！！」

竹原「相川君ナイス返球！土屋君間に合うか！……」

鉄人「セーフ！！」

Aチーム「ナイスラン！！！！」

竹原「土屋君、ナイスラン！相川君の返球も良かったが、土屋君の足の速さが上回りました！」

新野「あの二人は人間の限界を超えていますね」

新野「四番、キャッチャー、坂本君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「ファーストゴロでスリーアウト。しかしこの回土屋君の足で一点入りました。この一点をAチームがどれだけ守るかが、試合のカギになりそうです」

### 三回裏

新野「八番、キャッチャー、織戸君」

竹原「Aチームが一点を入れた回の裏、バッターは一回に好送球を見せた、キャッチャーの織戸君」

ピッチャーが投げる

ブント

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

ブント

鉄人「ストライク」

竹原「バッターの織戸君、追い込まれました」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「ツーボールツーストライクです」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「フルカウントです。吉井君はここでランナー出したくないです  
すね」

新野「そうですね。ノーアウトのランナーは心理的にきついですか  
らね」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール。フォアボール」

竹原「おーっと！ここでランナーを出してしまいました」

新野「九番、シヨート、宇宙君」

竹原「さっそくバントの構えです」

ピッチャーが投げる

コッソ

竹原「一球目から決めてきました。ワンアウトランナー二塁です」

新野「一番、ライト、杉崎君」

竹原「外野が定位置より前に居ます」

新野「シングルヒットでも一点ですからね」

ピッチャーが投げる。

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

カンッ

鉄人「ファール」

竹原「カウントワンボールツーストライク。バッター追い込まれました」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「ファーストゴロ。二塁ランナーこの間に進塁します」

新野「二番、センター、中目黒君」

竹原「ツニアウトランナー三塁、ここでBチームは点を取りたいと

「ころです」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「ショートゴロ。ショートの福村君、一塁に送って……」

大島「アウト」

竹原「アウトでスリーアウトチェンジ。Bチーム、このチャンスを生かすきれませんでした」

## 応援団インタビュー〜其の二〜

リリシア「それではBチーム応援団へのインタビューを行いたいと思いますわ」

くりむ「あ、リリシア、何でここに!？」

リリシア「ということで、インタビューを開始したいと思いますわ」

くりむ「無視!？」

リリシア「では、碧陽学園の生徒はいつもとあんまり変わらないので、他の人を取材しますわ」

くりむ、知弦、深夏、真冬、巡「え、私（あたし、真冬）達出番終わり!?!？」

はい、そうなるフラグです。

リリシア「では、その黒髪のポニーテールの人よろしいですか」

セラ「はい、何でしょうか」

リリシア「今日は誰の応援へ来られたんですの」

セラ「ゴミンです」

リリシア「は?」

セラ「ゴミです」

リリシア「いや、あの、個人名を覚えていただければ……」

ハルナ「あーっ！葉っぱの人がインタビュー受けてる」

ユ一『楽しそう』

リリシア「あの一、今日は誰の応援に来たんですの」

ハルナ「アユムだっ！」

ユ一『アユムの応援』

リリシア「分かりましたわ。では、そちらの方々も同じですの」

友紀「おう！相川を応援しに来たぜ！」

平松「…私も、相川君の応援に……」

三原「私は織戸と下村も応援してるけどねー」

リリシア「なるほど、相川君はみんなから好かれてるんですね」

ハルナ「別に好きっていうわけじゃないからな！」

セラ「あの変態ゾンビの何処がいいのですか！」

友紀「応！俺は相川好きだぜ！」

平松「…好きだなんて…その…」

リリシア「なるほどですわ。それではありがとうございますわ。それでは、Bチーム応援席から藤堂リリシアがお送りしましたわ。相川君、早く彼女たちの行為に気付いてあげてくださいですわ」

ハルナ・ユー・セラ・平松・友紀「!!」

リリシア「それでは」

## 四回表

新野「五番、ピッチャー、吉井君」

竹原「さあ、さっきの回、得点圏にランナーを進めながらも、押さえきった吉井君が先頭バッターです」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「ツーボールノーस्टライク。ボールが先行しています」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「ショートゴロ。ショートの宇宙君、落ち着いて送球して…おーっと！握り損ねて、なげられない！ノーアウトランナー一塁にな

りました」

新野「六番、レフト、須川君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「一二塁間抜けたーっ！ファーストランナーの吉井君は三塁へ。さあ、ノーアウトランナー一二塁になりました」

新野「七番、サード、久保君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「のびる！そして……入ったーっ！！七番サードの久保君、ライトスタンドへのスリーランホームランです！」

鉄人「久保、駄洒落を言ってみろ」

久保「スパイダーはスパイダー」

鉄人「なかなか面白い。気に入った」

竹原「久保君、駄洒落で一点追加ーっ！！これで、6対2になりましたー！」

新野「いやー、今の駄洒落のどこが面白かったのでしょうか」

新野「八番、ライト、桜井君」

ピッチャーが投げる

こんっ

竹原「ピッチャーゴロで…ワンアウト」

新野「九番、ショート、福村君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「ライトフライで…ツーアウト」

新野「一番、セカンド、土屋君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク、バッターアウト！」

竹原「最後は高めの釣り球に手が出ました。しかし、この回大きな4点が入りました」

## 四回裏

竹原「Aチームが大量得点を入れた後の攻撃、Bチームは点を取りたいところです」

新野「三番、サード、夏川君」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

竹原「夏川君、初球から振ってきました」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク、バッターアウト！」

竹原「吉井君、まずは三番夏川君を三振に抑えました」

新野「四番、レフト、相川君」

竹原「先ほど場外ホームランを打った相川君の打席です。…おーつと！ここでキャッチャーが立ち上がります」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

~~~~~しばらくおまち下さい~~~~~

鉄人「ボール、フォアボール」

新野「五番、セカンド、常村君」

ピッチャーが投げる

ガギンっ

竹原「これは伸びる！のびて…おーつと！守形選手、フェンスに軽々と登ってホームラン級のあたりをキャッチ！そして三塁回ったランナーは…戻れない！守形選手、素晴らしい守備と返球で、Aチームのピンチを防ぎました！」

## 五回表

新野「二番、ファースト、木下君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

竹原「バッター早くも追い込まれました」

ピッチャーが投げる

カンッ

鉄人「ファール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「ワンボールツーストライクです」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「右中間を…破ったーっ！打ったバッターは二塁を回って三塁へ！」

福原「セーフ」

Aチーム「ナイバッチ！」

竹原「ノーアウトランナー三塁。Aチームまたしても得点圏にランナーを進めてきました！」

新野「三番、センター、守形君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「スクイズだーっ！三塁ランナー帰ってきて、これで7対1。Aチームさらに点差を広げました！そしてバッターは四番の坂本君です」

新野「四番、キャッチャー、坂本君」

ピッチャーが投げる

ガギン

竹原「レフトへのフライ！これでツーアウトです」

新野「五番、ピッチャー、吉井君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「完全に詰まらされて…スリーアウト。Aチーム、今回さらに追加点を挙げBチームを引き離しました。Bチームは次の回で得点を挙げられるのでしょうか」

五回表(後書き)

Aチーム強すぎるWW

## 五回裏

新野「六番、ピッチャー、下村君」

竹原「六点差で迎えた五回の攻撃。下村君は塁に出ることができ  
のでしょうか」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「一塁線：抜けたーっ！打ったバッターは二塁へ」

新野「七番、ファースト、上条君」

竹原「バントの構えです」

ピッチャーが投げる

コッソ

竹原「一球目で決めてきました。これでワンアウトランナー三塁」

新野「八番、キャッチャー、織戸君」

ピッチャーが投げる

カキン

竹原「大きく上がったフライはレフトへ！犠牲フライには十分！レフトがとって…下村君走る！レフト須川君も良い送球だが…間に合わない！Bチーム一点を返しました！」

新野「九番、ショート、宇宙君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク、バッターアウト！チェンジ」

竹原「最後は見逃しの三振！吉井君、一点はとられたものの、後続を切りました」

## 六回表

竹原「さあ、いよいよ試合も終盤になってきました。果たして勝つのはどちらか！」

新野「六番、レフト、須川君」

ピッチャーが投げる

カキン

竹原「ライトへの大きいフライだーっ！ライトの杉崎君、追いつくか……追いついたーっ！ワンアウトランナーなしです」

新野「七番、サード、久保君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「当てるだけのバッティング！ファースト取って……ツーアウト」

新野「八番、ライト、桜井君」

ピッチャーが投げる

カキンっ

竹原「二遊間破ったーっ！ツーアウトからのランナーです」

新野「九番、ショート、福村君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「セカンドゴロ。ファーストに送って」

大島「アウト」

竹原「アウトです。Bチームこの回四人で抑えました。この勢いが攻撃にもつながるといいですね」

新野「そうですね」

## 六回表（後書き）

現実世界では高校野球はベストエイトが決まりました

## 六回裏

竹原「六回裏、7対2、五点差を追いかけるBチームの攻撃は、一番、ライト杉崎君から始まります」

新野「一番、ライト、杉崎君」

ピッチャーが投げる

カツン

竹原「セーフティーバントだーっ！間に合うか！」

大島「セーフ！」

竹原「ノーアウトランナー一塁になりました」

新野「二番、センター、中目黒君」

ピッチャーが投げる

カキン

竹原「右中間を……抜けたーっ！！一塁ランナーは……サードを回ったところで足を止めました。ノーアウトランナー一三塁です！」

新野「三番、サード、夏川君」

ピッチャーが投げる

カキン

竹原「レフト線、のびる、のびる……切れたーっ！ファールです！結構いい当たりでした」

新野「そうですね、風が吹いてなかったら、というところです」

ピッチャーが投げる

ガギンっ

竹原「完全に芯で捉えたあたり！レフトスタンドに……はいったーっ！夏川君、スリーランホームランです！これで2点差としました」

鉄人「駄洒落を言え」

夏川「えーっと……古典の授業中は肩が凝ってんねん」

鉄人「まあ、良いだろう」

竹原「アバウトすぎる！かつてここまでアバウトな審判がいたでしょうか！」

新野「四番、レフト、相川君」

竹原「さあ、Bチーム一点差まで詰め寄りました」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「敬遠です。ここは次の常村君で打ち取るといったところでしょう」

新野「五番、セカンド、常村君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「これは完全に詰まらされた当たり。6 - 4 - 3でダブルプレイ。ツーアウトランナーなしになりました」

新野「六番、ピッチャー、下村君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライクバッターアウト、チェンジ」

竹原「いよいよ次が最終回です！はたしてどちらが勝つのでしょうか！」

## 七回表

竹原「さあ、Aチーム最後の攻撃です」

新野「六番、レフト、須川君」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

竹原「カウントワンボールノーストライク」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「三遊間を抜け…おーっと！サード夏川君、外野へのあたりを

取りました！そして…アウト！ワンアウトランナーなしです」

新野「七番、サード、久保君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「ファーストゴロで…アウト。ツーアウトになりました」

新野「八番、ライト、桜井君」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「内野フライで…アウト！最後はサードの夏川君がとりました。Bチームは守備の勢いを攻撃につなげていきたいところです」

七回表（後書き）

次回最終話です

七回裏（前書き）

最終話です

## 七回裏

竹原「さあ、泣いても笑ってもこれが最後！七回の裏、Bチームが一点を追っています」

新野「七番、ファースト、上条君」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライクバッターアウト」

竹原「ピッチャーの吉井君、まずは一人抑えました」

新野「八番、キャッチャー、織戸君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

カンッ

竹原「センター前へのヒット！同点のランナーが出ました」

新野「九番、ショート、宇宙君」

ピッチャーが投げる

鉄人「ボール」

ピッチャーが投げる

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライクバッターアウト」

竹原「あとアウトカウント一つとなりました」

新野「一番、ライト、杉崎君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「鈍い当たり！だがバウンドが高い！ショートは一塁にボールを送るが…」

大島「セーフ」

竹原「セーフです！ツーアウトランナー一二塁となりました」

新野「二番、センター、中目黒君」

ピッチャーが投げる

ガンッ

竹原「レフト前ヒット！Bチームここにきて連打が出ました！そしてバッターはBチームキャプテンの夏川君です！」

新野「三番、サード、夏川君」

ピッチャーが投げる

ブンッ

鉄人「ストライク」

竹原「一球目から強振してきます」

新野「ここで逆転しなかったら終わりですからね」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

竹原「バッター追い込まれました」

ピッチャーが投げる

ガンッ

鉄人「ファール」

竹原「吉井君も力を込めて投げています。ピッチャー第四球投げた、あーっ！ここでセーフティバント！」

カツン

竹原「夏川君、うまく転がしたが、ピッチャーの吉井君素早いフィールディングで一塁へ送球！…ああーっ！送球がそれた！ファーストの木下君取れない！その間に三塁ランナーの織戸君、ホームベースに戻ってくる！二塁ランナーも三塁蹴って…ホームベースに戻ってきた！送球はいいタイミングだ！判定は…！」

鉄人「セーフ…！」

竹原「セーフです！Bチーム逆転サヨナラ勝ちです！夏川君、キャプテンとしての意地を見せました！」

鉄人「7対8でBチームの勝ち。礼！」

選手「ありがとうございますーっ…！」

竹原「実に良い試合でしたね」

新野「そうですね」

七回裏（後書き）

実を言つとまだ続きます W

試合終わって・・・

〈ゲームセット宣告直後〉

鉄人「それでは、全員着替えて再びここに集合！」

明久「何をやるんですか？鉄人」

鉄人「西村先生と呼べ」

雄二「それで、何をやるんだ」

鉄人「まあ楽しみにしておけ。お前らにとって得のあることだ。それじゃあ着替えてこい！」

選手『はい』

〈着替え終わって再び集合〉

鉄人「応援団も、選手も、逃げたものは誰もいないな」

明久「居ないと思いますよ」

鉄人「それでは移動する」

〈移動中〉

鉄人「それでは各自、席に着け」

明久「何をするんですか？鉄人」

明久たちが連れてこられたのは、とある学校の自習室だった。

雄二「！！」

鉄人「坂本、気付いたようだな」

雄二「くそっ！俺としたことが」

明久「何があつたの雄二？」

雄二「鉄人は今から俺らに勉強させようとしている」

全員「！！！！」

鉄人「御名答。今から現代国語、古典、数学、物理、化学、日本史、世界史、現代社会、英語、保健体育のテストをやってもらう。各教科30分、100点満点のテストだ。合計1000点満点でそれぞれの順位を決め、下位10人は補習を行ってもらう。体を使った後には頭も使わないとバランスが悪いからな」

明久「そんなのm」

鉄人「問答無用！！それでは始める」

（テスト中）

鉄人「それではしばらく待つように」

明久「あゝ、疲れた」

雄二「完全に俺ら狙いじゃねえか」

ムッツ「…保健体育は完ぺき」

鉄人「それでは、得点を発表する。特別ルールとして、一教科でも100点を取ってるものは、下位10人のなかにも、補習は免除する」

明久「それなら、日本史は結構自信があつたからね」

雄二「俺は数学に自信がある」

秀吉「わしは古典じゃ」

鉄人「上から発表する。杉崎、紅葉、久保、姫路、霧島、イカロス、ニンフ、ハルナ、ユークリウツド、平松、全員満点」

全員「すげえ!!!」

そんなこんなで発表されていき・・・

鉄人「それでは、下位十人の発表だ。下位十人は吉井、坂本、木下、桜井、土屋、相川、桜野、アストリア、上条、織戸だ。しかし、吉井は日本史、坂本は数学、木下は古典、土屋、桜井、織戸は保健体育が100点だったので、補習は免除。よって補習受講者は桜野、アストリア、相川、上条の計4人だ。それ以外の奴は解散!」

補習受講を免れた者たち『よっしゃー!!!』



試合終わって・・・（後書き）

終わりました。

今思えば、野球にそんな詳しくないのになぜ書くころと思ったのか・

・  
中学時代の部活はサッカー部でした。でもサッカーを小説で書くのはとてもムズイですww

とにかく、読みづらい文章をここまで読んでいただきありがとうございます。ざいます。

これからもいろいろ書いていきたいと思えます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6792v/>

---

自分の好きなキャラクターで野球

2011年8月21日03時50分発行